



# 掛川市おむつリサイクル・ごみ減量推進会議 設置の目的と目指す姿

～ 環境の持続可能性に向けた更なるごみ減量と資源化研究事業の概要 ～

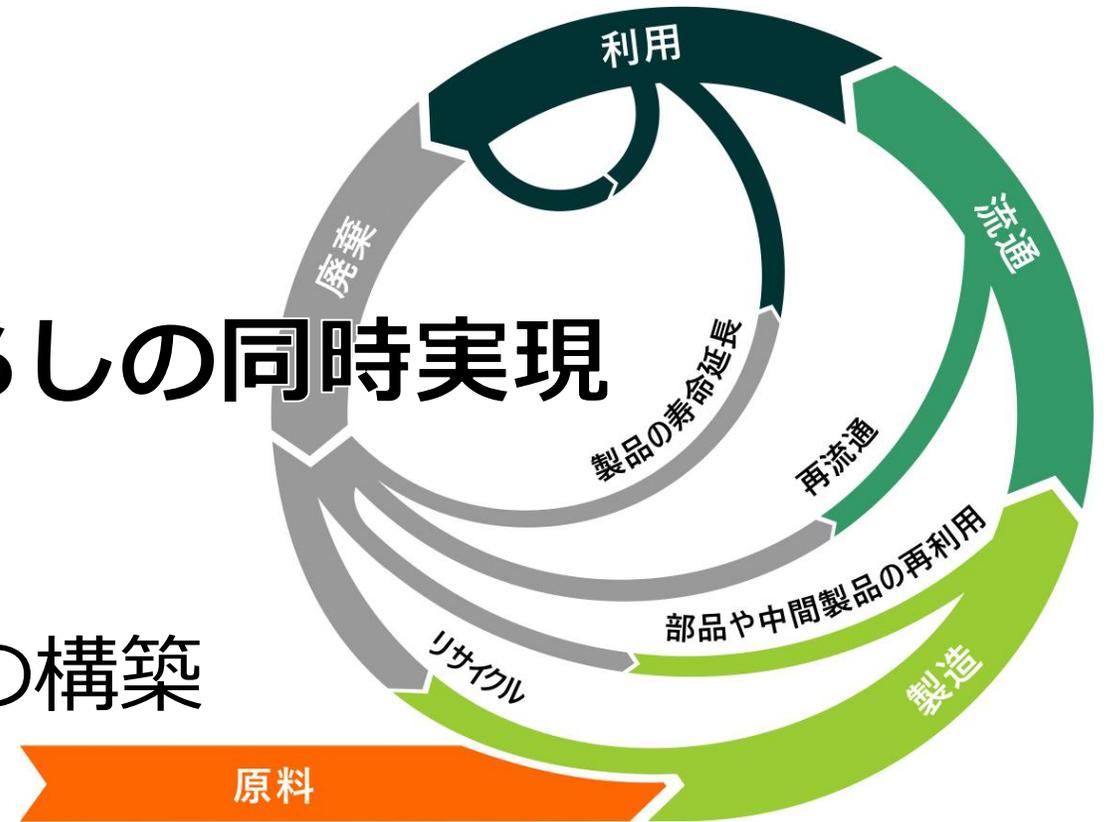
令和5年5月 掛川市 協働環境部 環境政策課



# 1 実現したいこと

## 環境の持続性と豊かな暮らしの同時実現

→ 焼却と埋立に頼らない  
ゼロエミッション社会の構築





## 3 具体的な取り組み

### (1) 掛川市おむつリサイクル・ごみ減量推進会議

【検討いただくこと】

① **ごみを燃やさずに資源化するための仕組みの検討**

- ・ 新たな分別内容の検討、分別処理スキームの検討など

② **更なるごみ減量施策の検討**

③ **市民が施策を実行するための方策の検討**

- ・ 市民や事業者の理解や参画手法の明確化

⇒ 検討された内容を、改定する一般廃棄物処理基本計画にも落とし込む

### (2) SDGsプラットフォーム共創事業提案事業者との検討

- ・ 次世代に向けた資源循環の具体的な事業スキームの設計



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS  
掛川SDGsプラットフォーム  
～「共創」による新しい未来をめざして～  
掛川市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています



## 4 環境の持続可能性に向けて初めてチャレンジすること

- (1) カーボンニュートラルが実現した社会と掛川市を想定して研究
- (2) 環境政策の専門家だけでなく、実践者となる市民や事業者も参画
- (3) ダイバーシティの観点から多様な方々が環境の持続性を検討
- (4) 業種を問わず、本事業の意図に共感する様々なSDGsパートナーが参画
- (5) 令和7年度のモデル地区での事業着手を目標に設定予定



## 5 解決したい社会的課題

### (1) 2050年までにカーボンニュートラルの目標を達成

政府同様、掛川市でも地球温暖化防止実行計画の中で、2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにすること、また、2030年度までに、2013年度対比で温室効果ガスを**46%削減**することを目標に設定！

※ 後ほど第3期掛川市地球温暖化対策実行計画について説明します



## (2) カーボンニュートラルの目標達成のために

### 市民や事業者の行動スタイルの変革による

### 「環境と市民生活と経済」が地域内で好循環する制度設計 が必要！

- ① 焼却や埋立に頼る量を減らす次世代型資源循環の仕組み構築すること
  - ・ 使用済紙おむつを利用した再生紙おむつや産業用燃料生産による循環
  - ・ 生ごみを利用した農業用肥料生産や創電による循環
  - ・ 粗大ごみ等の再利用による循環 など
  
- ② 資源循環のループの中で地域課題解決の仕組みを構築すること
  - ・ 住み慣れた地域で安心して住み続けることができる環境整備
  - ・ エネルギーマネジメントや5 Rの推進による脱炭素の推進 など



# ◆ 環境の持続可能性に向けた更なるごみ減量と資源化研究事業のフレーム ◆

資料1-2



- 市民
- 大学等 専門家
- 地域
- 市民活動 団体
- 企業
- 金融
- 近隣 市町

- 1 学術的・専門的な研究・提案
- 2 ソリューションの提案
- 3 先進事例の提案
- 4 実施に向けた助言
- 5 連携方法の提案
- 6 関係者調整支援
- 7 ESG投資等

## おむつリサイクル・ごみ減量推進会議

### 更なるごみ減量と資源化の研究

- ①新たな分別内容
- ②分別処理のスキーム
- ③市民・事業者の動機付け方策

検討依頼 ⇄ 提言・報告

掛川市

推進会議提言内容の提示 ⇄ 具体的事業の提案

## 掛川SDGsプラットフォーム

### 企業等連携による分別処理のスキームづくり

- ①ソリューションの提案
- ②マッチング・具体的事業化検討
- ③ESG投資等の呼び込み

## 分別・リサイクルの具体的事業

1 使用済み紙おむつ

2 生ごみ

3 製品プラスチック

4 剪定枝・落ち葉

5 食ロス、リユース推進など

地球温暖化対策  
実行計画の目標達成

一般廃棄物処理基本計画  
への落とし込み

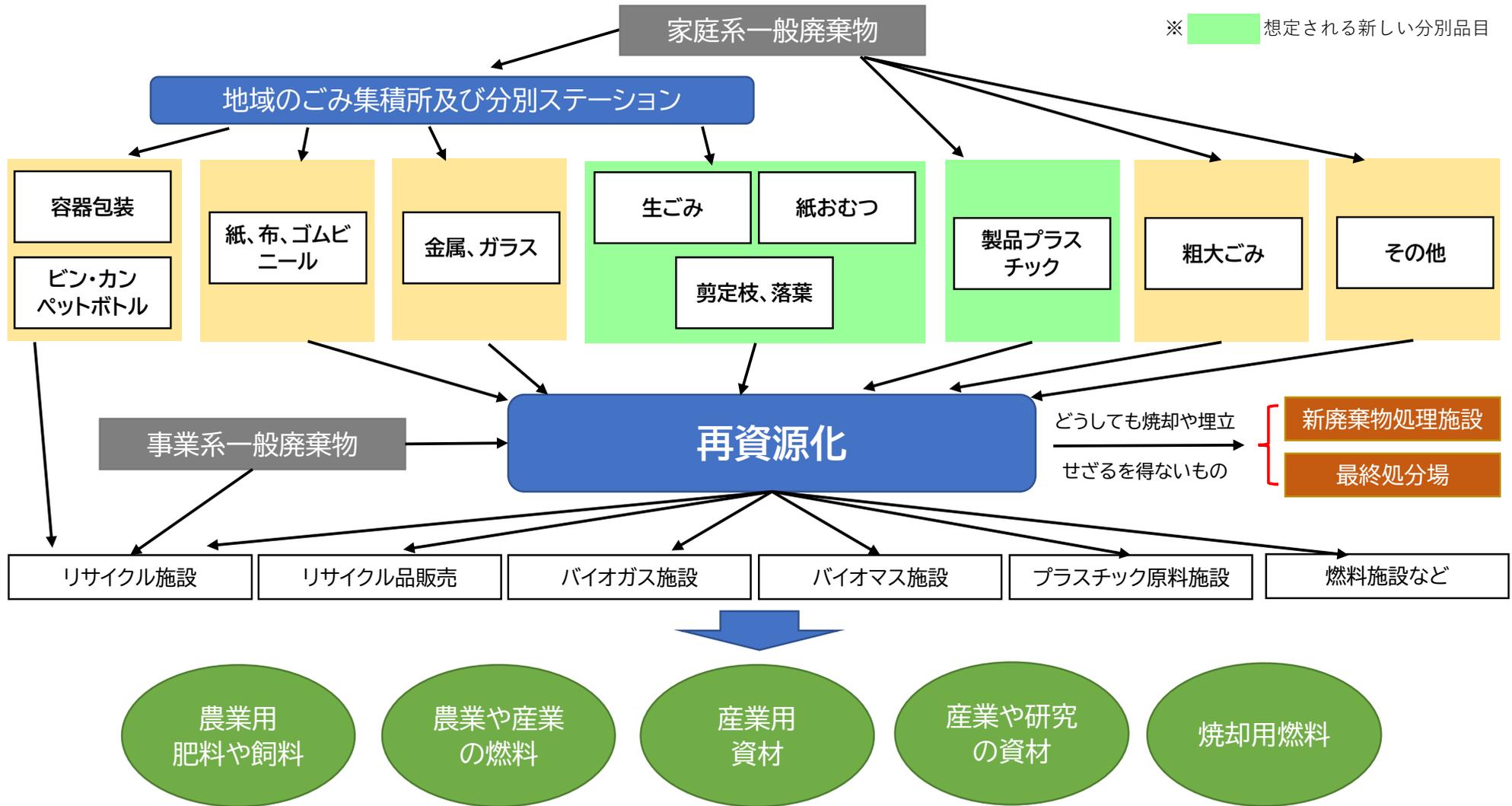
2030年までに市内の温室効果ガス排出量46%削減

※2013年度比

# サーキュラーなまちづくりのための資源循環イメージ

資料1-3

キーワードは「包括的資源循環」家庭や事業所から出るごみを資源循環させることで、焼却を限りなくゼロに



ごみは資源として、再び暮らしや経済活動へ